

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500304		
法人名	社会福祉法人 宇津野会		
事業所名	グループホーム 金矢（南町ユニット）		
所在地	〒025-0304 花巻市湯本19地割380-1		
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は山や田んぼの自然あふれる環境の中で、利用者様が住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう支援しております。
職員は目標の「笑顔、気づき、報連相」と、理念の「ともに歩み、ともに支え、ともに生きる」を毎日唱和しながら実現に向け取り組んでおります。2ユニットの18名定員で、現在満床となっております。ユニットにとらわれず、施設全体で活動や行事に取り組み、季節ごとのバスハイクや園芸活動にも力を入れていて、利用者様と一緒に苗植え・水やりしながら栽培し、収穫したものは食事に取り入れたりしながら喜び・楽しみを感じられるよう取り組んでおります。
また、「グループホーム金矢便り」や日常の様子が分かるような写真、「施設での様子」を定期的に提供し、家族様との繋がりも大事にしながら安心していただけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、花巻温泉郷や花巻広域公園が近くにある山林や田畑が広がっている閑静な田園地帯に立地しており、ホールの窓からも四季の風景の変化を楽しめる住環境にある。職員全員で2ユニットの全利用者の支援に当たる運営を行っており、ユニットの間にある小上がりから利用者の様子を見守れるので、小上がりで開催する職員会議には全職員が参加することができ、職員全員で意見交換を行っている。同法人が運営するケアハウスが隣接しており、日常的に看護師などの協力が得られる体制ができている。「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」という理念を掲げ、その実現のための実践目標を「笑顔、気づき、報連相」として毎日の申し送りや唱和し、日々のケアの実践に生かすように取り組んでいる。今年度からはコロナ禍で中断していた地域との交流や、ドライブなどの外出を再開し、利用者個々の思いや意向に合わせた支援を心がけながら、その様子を「グループホーム金谷便り」や個別の写真付きお便りなどで家族にお知らせし、家族の安心感につなげている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」という理念の実現に向け、目標の「笑顔、気づき、報連相」を定め、毎日の申し送りの際に職員全員で唱和し共有しながら日々のケアに繋げている。	職員と利用者が「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らす」という理念は、平成29年開設後に職員皆で話し合って定めたもので、職員も利用者も誰もが見やすいように玄関に掲示している。職員は毎日申し送りで唱和しており、意識を持って日々のケアの中で理念を具体化していくよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症が発生後は、日常的に地域との交流ができていない状況だったが、地域協力員の協力を得ながら避難訓練を行ったり、地区のお祭りの際は子供神輿を玄関前で利用者に見ていただいたり、近隣施設のお祭りに参加させていただいている。また、園芸のための苗を分けて頂き、育て方を教えていただいたり、今年度より近くのスーパー等への外出支援を再開し、徐々に日常的に交流できるよう努めている。	事業所は地域の一員として自治会に加入しており、コロナ5類移行後は、地域のお祭りなどの行事を通じた交流や、近隣の障害福祉サービス事業所「わたぼうし」との交流を再開している。法人から行政区長等の地域住民4名を地域協力員として委嘱し、災害時等に協力を得ることとしており、冬期には事業所敷地の除雪作業も行ってもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の方のケアについての話し合いを行ったり、ご家族様には認知症の理解や支援相談を随時対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1回開催し地域協力員、地権者、地域包括支援センター職員、利用者、利用者の家族などで構成して、日々の取り組み状況等について報告や意見交換を行いサービス向上に繋げている。	前回の外部評価後に目標達成計画を立て、運営推進会議を対面で開催することと行政区長等の参加を検討することになっていた。現在は会議を2ヵ月に1回対面で開催し、メンバーには地域住民代表、知見者として退職教員、民生委員、地域包括支援センターから職員が交代で参加しているほか、利用者や家族も参加している。会議では、地域からの情報提供や地域包括支援センターからのヒヤリハット報告などに対する助言に加え、家族から運営に対する要望が出されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは2ヵ月に1度の運営推進会議や施設の空き状況によって、相談や問い合わせ等の連絡を密にしており、介護支援専門員が窓口となり、介護保険担当課とは必要な時に連絡、確認が取りあえる関係を築くよう取り組んでいる。	2ヵ月に1回開催される運営推進会議には地域包括支援センターの職員が交代で出席しており、顔の見える関係ができています。市との連携としては、介護保険担当課への連絡・相談のほか、生活保護担当のケースワーカーへの書類提出や必要時の電話連絡などを行っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止に関する指針を定め、定期的に身体拘束適正化委員会や職員間の研修を実施し、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。2人の入居者が転倒防止のためセンサーを使用し、夜間は防犯上、玄関を施錠している。	法人全体の身体拘束廃止に関する指針が定められており、3か月に1回開催される法人の身体拘束適正化委員会には事業所から管理者が参加している。また、事業所独自に身体拘束委員会を設置して、年3回の事業所内研修や、毎月開催される職員会議でスピーチロックや身体拘束について確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠しないで、ドアが開くとセンサーが感知してメロディが流れるようになっていて、外に出ていく利用者には職員が話を聞いたり、付き添ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員間の研修実施し、法人内でも高齢者虐待防止対策委員会を設け、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を実施し、制度について学ぶ機会を持ち、職員間の理解を深め、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は来所して頂き、重要事項説明書等で契約内容を説明し、改定等の際についても内容を説明し同意をいただいている。不安や疑問についても連絡を頂いた都度対応し、理解・納得をしていただけるよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や利用者家族にも参加していただき意見や要望を取り入れ、面会や受診の付き添いで、家族が施設に来訪した際にも利用者の近況を伝え、家族の要望を取り入れるよう努めている。また、「グループホーム金矢便り」を2か月に1回発行、スナップ写真、「施設でのご様子」を各家族に送付し利用者の状況を伝えている。	運営推進会議に利用者や家族も参加しており、事業所運営について意見をもらう機会は確保されている。また、広報紙「グループホーム金矢便り」を2か月に1回発行しているほか、利用者一人一人のスナップ写真や生活の様子を掲載したお便りを各家族に送付し、家族が意見を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。家族から写真が欲しいと希望されれば複写して渡したり、利用者の暮らしの様子を詳しく知りたいと希望されればできるだけ詳しく記載してお知らせしている。	運営推進会議などで、家族から「面会時に居室に入りたい」「利用者が居室でコーヒー等を飲みたいようだ」などの要望が出ていますが、反映させることができないか検討することを期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 金矢（南町ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員会議を開催し、できるだけ職員の発言を促し、意見や提案を聞き取り入れるようにしている。昨年度より業務改善委員会を設けることで、業務内容の見直しなどの提案や意見を反映しやすい環境づくりに努めている。	2ユニットの職員全員が参加する職員会議を毎月開催し、管理者は全職員に発言を促し、意見や提案を聞くようにしている。また、昨年度から業務改善委員会を設置したことで、日常業務の中で気づいたことの改善提案が出やすくなった。改善事例として、大まかなデイリープログラムの改善を求める意見が出され、より具体的なデイリープログラムが作成されたことにより、新人職員でも仕事がしやすくなったことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握しながら、責任ややりがいを感じられできるだけ向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。移動があった職員等には個別に聞き取りを行い、問題点の把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を促し、今年度は3名の職員が介護福祉士取得に向けて取り組んでいる。また、認知症実践者研修や福祉職員キャリアパス対応生涯研修等を受講する機会を設け、法人内研修や委員会活動等でそれぞれの職員が働きながらトレーニングできるよう、環境の整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設の職員同士で、一緒に委員会活動や研修を実施しながら、サービスの質を向上できるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査と面談を実施し、できるだけ本人の要望等に耳を傾け少しでも不安なく入居していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族からの要望や困っていること、不安なこと等を聞き入れながら関係づくりできよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 金矢（南町ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に、本人とご家族が必要としている支援を確認し、居室担当や職員間で検討しサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ること得意なことを把握し、できるだけ維持できるよう一緒に家事や園芸に取り組み、理念に掲げている「ともに暮らし ともに支え」合える関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ受診はご家族に対応して頂き、面会時や電話で連絡を取り関わりを持ちながら、お便り等で日常の様子をお知らせし、ご家族と共に本人を支えていける関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部制限を設けながら、ご家族との面会は昨年からの継続しており、馴染みの人との関係が途切れない様支援している。	コロナ禍で面会や交流を控えてきたが、現在は面会については玄関で2、3名で30分というように、場所、人数、時間に制限はあるが緩和しており、利用者の楽しみになっている。また、入居前からの馴染の関係継続として、手紙のやり取りや電話での交流なども職員が積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流スペースはユニットごとに利用者同士の関係を考えながら、分けて普段の食事やおやつ時に利用しているが、そのほかの時間や行事の際はユニットに関係なく全員で交流、関わり合いできるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、問い合わせがあった時に対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 金矢（南町ユニット）

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の生活歴の聞き取りと日常の会話の中で出来るだけ希望や意向を把握し、自ら意向を発しづらい方は表情や反応を見ながらできるだけ、職員間で情報共有し本人本位の暮らしができるよう努めている。	日常生活の様々な場面の中で希望や意向を把握できるように努めており、言葉で伝えることが難しくなっている利用者については、行動の様子や表情を良く見ながら、具体的な言葉で問いかけるなど丁寧な対応を心がけている。把握した情報は職員間で共有して支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生活歴やサービス利用状況を把握し、その後も会話の中で生活環境、ご家族から知り得た情報を共有しこれまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に様子観察を行い、利用者の有する能力や心身状態、一日の過ごし方を把握するよう努め、申し送り等で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前にご家族等から情報収集を行い、職員で情報共有しながら、ケース会議で課題、目標、サービス内容等の見直しを行い、計画作成者が現状に即した介護計画を作成し、本人、ご家族から同意を得ている。	毎月の職員会議で利用者の状況について情報交換を行っており、変化があった場合には現状に即した介護計画への見直しを行っている。大きな変化がなければ介護支援専門員が6ヵ月ごとに、介護計画に即してサービス内容が行われているかのモニタリングを行ったうえで介護計画を更新している。家族からの意見は、通院同行などで来所したときや電話など日ごろの関係性の中で聴取するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌やケース記録に入力、申し送りで情報共有し、日々のケアや計画見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の受診はご家族対応としているが、家族が遠方にいる利用者の受診対応は職員が交代で行ったり、利用者の個々の状況に対応できるよう職員間で話し合いながら取り組んでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 金矢（南町ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症が発生してからは、日常的に地域との交流が持ちづらくなっている中で、地元の理容室に定期的に来所していただき利用したり、豊かな暮らしを取り戻せるよう外出支援等で楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前からのかかりつけ医との関係を維持し、7割以上がご家族の付き添いで受診対応している。通院後はご家族から聞きとった診察結果や服薬の変更等を記録に残し職員間で共有している。	利用者のほとんどは入居前からのかかりつけ医に通院し、受診している。通院は家族の同行を原則としているが、家族が対応できないときは職員が同行しており、7割は家族が同行、3割は職員が同行している。通院時には、日常のバイタルや特に気になることなどを記録して家族に渡し、かかりつけ医への情報提供としている。受診結果については家族から聞き取り、ケース記録に記載し職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常駐しておらず、日常の様子や体調変化に関する情報を家族と共に共有し、かかりつけ医を受診時には適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、計画作成者が主となり、家族や医療機関と情報交換を行い早期に退院できるように相談を行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応や看取りを行っていない事を説明し同意を得ている。重度化した場合の利用者の家族には他施設への住み替えの提案と情報提供を行っている。体調変化時は隣接するケアハウスの看護師に相談し助言を得ながら支援している。	看取りに対応する協力医を確保できていないことや施設の設備が備わっていないことなどから、看取りは行っていない。契約時に事業所の方針を説明し、利用者、家族の同意を得ている。住み慣れた場所で最後まで暮らしたいという思いも利用者や家族の中にはあるが、重度化した場合には住み替えの提案をし、受け入れできる他施設と連携しながらスムーズに移行できるよう支援している。	認知症高齢者にとって環境変化は好ましいことではなく、事業所が終の棲家になっていけるように中期的な課題として検討していくことが望まれます。検討に当たっては、地域包括ケアを推進し医療連携を充実させていく上で事業所だけでは困難なことが多いと思われるので、行政担当部署と積極的に連携を図っていくことを期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故は発生時の原因や対策を委員を中心に、予防できるよう検討し、内部研修を通して急変時や事故発生時の対応できるよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常訓練と夜間想定避難訓練や事前にお知らせせず訓練を実施し、職員間での動作確認等を行いながら利用者様が安全かつ迅速に避難できるよう取り組んでいる。また、地域協力員にも協力していただきながら訓練し協力体制構築に努めている。	事業所は市のハザードマップで危険区域には指定されておらず、8月に火災を想定した通常の避難訓練を、10月には夜間の地震を想定した避難訓練を職員の動作確認を行いながら実施している。災害時には地域協力員に避難場所での見守りをお願いするなど具体的に協力を依頼している。災害時の事業継続計画(BCP)を策定済みであり、災害備蓄として食料3日分を常備している。前回の外部評価後に目標達成計画を立て、レク活動に避難経路を確認する活動を取り入れるとしており、計画どおりに職員も利用者も避難経路を確認し、防災意識を高めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の言葉遣いや声掛けはできるだけ丁寧な対応をするよう心掛けていて、広報誌の写真掲載についても入居説明時に同意を得ている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないための研修を毎年開催しており、一人一人を尊重した対応に努めている。特に丁寧な言葉かけについて意識して取り組んでおり、丁寧な言い換えについての資料を配布するなどして、適切な対応に役立てている。全居室にトイレと洗面台が備わっており、排泄時のプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日常会話の中から本人の希望や思いを聞き出し、自己決定できるよう促したり働きかけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、無理な声掛けはせず希望に添って支援するよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに居室担当を中心に衣類の調整をし、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあった食材や施設で収穫した野菜を取り入れながら、毎日のメニューを工夫しながら提供し、下ごしらえや配膳下膳等、利用者が出来ることを一緒に行っている。行事に合わせて地元の業者に料理を発注したり、楽しみなものになるよう工夫しながら提供している。	週間献立は給食担当の職員が作成し、利用者と一緒にプランターで育てた、ナス、キュウリ、オクラ等の野菜を食材として使うこともある。野菜を刻んだり、盛り付けたりすることなど、できることは利用者も一緒に行っている。敬老会、正月、クリスマス、お盆、ひな祭り、子どもの日、お彼岸などの行事には弁当を外注し普段とは違う食事を楽しんだり、食堂にクラシック音楽を流して静かにゆったりした雰囲気づくりをするなど食事を楽しめるように様々な工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量は入居時に利用者ごとに食べれる量を設定し、毎月の体重測定の増減を確認しながら変更も行っている。状態に応じてキザミ食等を提供している。水分は食事の前後やおやつの際には提供し、各ホールにポットを置きこまめに水分補給できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者ごとに自立している方は口腔ケアするよう声掛けし、義歯利用の方は夕食後に預かり洗浄剤に浸けている。介助が必要な利用者は見守りやケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり自立している利用者は個々のタイミングで排泄していて、介助が必要な利用者は排泄チェック表を活用しながらトイレ誘導や声掛けをしながら支援している。	二つのユニット合わせて15名の利用者は自立して排泄が可能であり、自分で居室のトイレを利用している。そのうち布パンツを着用している利用者は3名で、12名はリハビリパンツを着用して失敗に備えている。支援が必要な3名の利用者については、排泄チェック表を活用しながらさりげない声掛けや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	長い廊下を活かした室内ウォーキングや毎日のラジオ体操、一人での歩行が難しい方には椅子に腰かけた状態で足踏みを促す等のレク活動内で取り入れている。食事やおやつに牛乳やヨーグルトを取り入れ、3食の食事の前後や午前の水分補給やおやつで細目に水分補給していただき、便秘予防に取り組んでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に入浴日は月・木曜日の午前中に実施しているが、体調や個々のタイミングに合わせて、気の合う利用者同士で入浴を楽しめるよう配慮している。階段に不安がある利用者には中間浴槽を利用していただいている。	入浴は、月曜日と木曜日の午前中を原則としているが、通院や体調により入浴できなかった場合には別の日に入浴できるように支援している。浴槽は一度に3人入れる広さがあり、気の合う利用者が一緒に入浴を楽しめるよう配慮している。上がり湯に保温保湿効果や香りを楽しめるように入浴剤を使ったり、季節のゆず湯や菖蒲湯なども取り入れたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけレク活動等に参加していただいたり、日中は活動的に過ごしていただき、就寝時間は決まっていない為個々のペースで就寝し、ゆっくり休息、生活できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし職員全員で把握できる状態にしている。用法や用量等を処方通りに間違いのないよう複数の職員で確認し合い、薬の変更や症状の変化に気付けるようケース記録をこまめに行い情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話、コミュニケーションを図りながらそれぞれの得意なこと楽しみなことをできるだけ把握し、レク活動や行事、普段の食事作り等で気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが緩和され人気の少ない時間帯に外出支援を再開したり、天候を見ながら近隣への散歩も行っている。プランターでの園芸活動も行っていて、苗植えや草取り、水やりや収穫を行いと外での時間を過ごしていただいている。また地域の方からサツマイモの苗を分けていただき、土嚢袋での栽培の仕方を指導していただいたり協力を得ながら支援している。	前回の外部評価後に目標達成計画を立て、日常的に外に出る機会を設けたり、ドライブ等を行うこととしていたが、今年度は外出支援を再開し、事業所の車で一度に2、3人ずつであるが月1回程度ドライブに出かけている。利用者それぞれの希望を聞きながら普段は行けないスーパーやバラ園などで買い物や軽食喫茶など楽しんでいる。また、日常的にも屋外に出て日光浴をしながら散歩ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援を再開し、市内のスーパー等に出かけ自分で食べたいおやつを選び清算したり、お金を使えるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 金矢 (南町ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける利用者には、家族からの手紙に返事を書いたり、家族との連絡を取れるよう、希望によって自分からかけたり、家族からの電話を繋いだり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに食堂兼交流スペースがあり、食事以外の時間帯はテレビを見たりお話ししたり自由に過ごしていただいている。大きな窓があり室内は明るく、交流スペース、廊下、浴室にはエアコンが設置してあり、室温調整しながら快適に過ごしていただけるよう、自分たちで作った作品や壁画を飾り季節を感じられるよう工夫している。	南北のユニットごとに台所、食堂兼交流スペースがあり、その中央には畳敷きの広い和室の小上がりがある。共用スペースの天井は高く、大きな窓があり明るく広々とした開放的な空間となっている。大きな窓からは四季折々の自然の景色を楽しむことができる。共用スペースはエアコンで温度管理しており、加湿器も使用しながら快適に過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席はできるだけ気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫し、それぞれの交流スペースにテレビを設置しいつでも見られる環境にし、中央の畳の小上がりでは腰掛けながら新聞を読んだり思い思いに過ごせる場所になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台、トイレ、クローゼット、ベッド、エアコンが備え付けてあり、ベッド等の配置はそれぞれの利用者によって変え、室温もそれぞれで温度設定できている。自宅から使い慣れたテレビや棚等を持ち込んでいただき、写真や好きな飾りを飾ったり居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはベッド、クローゼット、洗面台、トイレ、エアコンが備え付けられており、利用者一人一人の好みに応じた温度と風量の調整が事務室の操作盤で行うことができるようになっている。利用者は、使い慣れた椅子や棚、テーブルなどを好みに合わせて配置しており、居室でテレビを見たり、趣味の写真を飾って楽しんだりして、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり「できる」ことは継続していただき、「できない」ことは全介助するのではなく見守り・声掛けしながらできるだけ安全で自立した生活が送れるよう取り組んでいる。		